

4 教育拠点

玉名教育拠点

1. 活動概要

玉名教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、現在、指導医2名、後期研修の専攻医4名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供という目標が実現されつつあります。

2019年初期臨床研修プログラム研修医（基幹型1年次：3名、2年次：3名、協力型は合計8名）の特別臨床実習（クリニカル・クラークシップ）の「総合診療科」の受け入れを行なっております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

今後、地域医療に貢献するため、地域での総合診療科の認知度、研修の場としての教育拠点の認知度をさらに上げ、地域での卒前、卒後の医学教育を継続し、充実させていかねばならないと考えています。

右の活動実績のごとく、院内外のレクチャー、カンファレンスも整備が進んでおり、玉名ならではの「学ぶ機会」、特に地域医療職の皆さんに限らず、地域住民の皆様との交流を通じた研修の機会もさらに増えています。より充実した教育環境づくりを進めていきたいと思っております。

初期研修・専攻医の活動は医療のネットワークと地域住民のネットワークをつなぐ役割を果たしつつあり、今後、地域づくり、地域医療研修に新しい方策をもたらすことが期待されます。



玉名救急医療研究会

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	13	レジデントデイ
5	17-18	JPCA学会 参加
	24	有明緩和ネットワーク研究会
6	14	玉名在宅ネットワーク会議
7	1	玉名救急医療研究会
8	7	有明緩和ネットワーク研究会
	9	講演会「心不全緩和のエッセンス」
	16	講演会「お・と・なの臨床倫理」
	19	有明感染症移送訓練
21-22		有明消防 救急趣味レーション研修
	27	公立玉名中央病院 CPC
9	6	玉名塾 Dr. Ramar 「Sepsis~ Management Update 2019」
	28	有明地区研修医合同カンファレンス
10	7	玉名救急医療研究会
	13	E-レジナビ 参加
11	15	有明緩和ネットワーク研究会
1	6	玉名救急医療研究会
	31	これからの玉名の地域医療を考える会
2	23	横島町いちごマラソン救護
	23-28	基幹型研修医 タイ 研修(中止)
3	15	玉名薬剤師会 市民公開講座 参加
	19	初期臨床研修 修了式



これからの玉名地域医療をみんなで考える会

教育拠点

教育拠点

3. 活動報告

教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1チーム3週間の特別臨床実習（総合診療科 クリニカル・クラークシップ）を玉名教育拠点で受け入れています。本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエスチョンを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとしています。

第3週に学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としました。その結果、3週間を通して患者の診療を経験すると同時に、論文検索を通して疾患についての学習を深めることができ、充実した実習であったとの学生からの評価を得ることができました。

この学習手法を実行する為には、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。来る2020年度も、更に多くの医学生の参加するよう地域での医学教育の質の向上に努めたいと思います。



朝回診風景～屋根瓦式指導体制



リエゾンカンファレンス

玉名教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー	プレゼンチャー	プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療(安成) or 緩和ケア回診(不定期)	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ	病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修	病棟研修		皮膚科合同カンファ
17:00		振り返り			週間振り返り
17:30			自己研修		

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー	プレゼンチャー	プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療(安成) or 緩和ケア回診(不定期)	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ	病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修	病棟研修	TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00		振り返り			週間振り返り
17:30			自己研修		

プライマリケアレクチャー 熊本県地域医療支援機構で要請可能なオンラインレクチャー
 モーニングレクチャー 臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
 リエゾンカンファ 総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、縦長連携を多職種で検討するカンファレンス
 TMEC クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



TMEC

◆ 初期臨床研修（総合診療科研修）

2019年4月時点で、公立玉名中央病院は、基幹型研修プログラムに3名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学病院のプログラムの協力医療施設として6名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計14名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。玉名教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

課題としては、初期臨床研修医の期間は、月ごとの成長が著しく、研修時期に応じて研修医の臨床能力に大きな差が生じ、担当患者数のみならず、患者の重症度や疾患の種類で、研修負担の調整が困難であること、指導医師の業務の負担が大きくなってしまっていることが挙げられます。



午後回診風景
医学生、初期研修医、専攻医
総合診療スタッフ



新患カンファレンス



朝の研修医プレゼン研修

教育拠点

教育拠点

◆ 総合診療専門医（専攻医）研修

玉名教育拠点および公立玉名中央病院では熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療II」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2019年度は3名の2年次の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています

◆ 講演会・レクチャー

玉名拠点では様々な職種が参加するパライティイ富む勉強の機会が設けられています。



心不全緩和のエッセンス



玉名塾：Dr.Ramar レクチャー



お・と・な の臨床倫理

◆ モーニングレクチャー

日程	担当：講義内容	日程	担当：講義内容
4月2日	総合診療科：円滑なコミュニケーション	9月12日	腎臓内科：腎不全、急性腎障害
4月9日	総合診療科：コンビニ受診	9月17日	摂食嚥下障害認定看護師：摂食嚥下障害看護
4月16日	安成医院：在宅医療	9月19日	腎臓内科：輸液について
4月23日	安成医院：キク、コミュニケーション	9月24日	麻酔科：麻酔が原因の心停止
4月30日	診療情報管理室：診療記録	10月8日	皮膚科：火傷
5月7日	感染管理認定看護師：感染管理	10月15日	皮膚科：中毒疹
5月14日	診療情報管理室：DPC	10月29日	泌尿器科：導尿・尿道カテーテルの手法
5月21日	救急看護認定看護師：当院の救急医療	11月5日	泌尿器科：救急外来で泌尿器科疾患らしき人が来たら…
5月28日	医療安全室：医療安全管理	11月13日	消化器内科：H. pylori除菌治療
6月4日	MSW：医療費について	11月20日	消化器内科：急性胆管炎・急性胆嚢炎
6月11日	MSW：地域の連携先	11月26日	小児科：小児救急・CPAへの対応
6月18日	理学療法：リハビリテーションと理学療法	12月3日	小児科：熱性痙攣の対応
6月25日	理学療法：言語聴覚士の仕事	12月10日	整形外科：骨折一般
7月2日	呼吸器内科：肺がんの疫学	12月17日	整形外科：ギプスの巻き方
7月9日	呼吸器内科：人工呼吸の目標	12月24日	病理診断科：胃印環細胞様変化1
7月16日	糖尿病内分泌科：生活習慣病の治療	1月7日	病理診断科：胃印環細胞様変化2
7月23日	糖尿病内分泌科：ICUにおける血糖管理、内分泌疾患のエマージェンシー	1月14日	血液内科：貧血と血小板減少
7月30日	糖尿病認定看護師：糖尿病看護について	1月26日	放射線科：急性腹症の画像
8月6日	循環器内科：AMI治療、心電図1	2月4日	放射線科：胸部単純写真の読影
8月13日	循環器内科：AMI治療、心電図2	2月18日	緩和ケア認定看護師：緩和ケア看護の現状
8月21日	健診センター：健診センターの紹介	2月25日	がん化学療法看護認定看護師：がん化学療法看護の現状
8月27日	健診センター：行動変容を目指した保健指導	3月3日	薬剤部：薬剤部の業務紹介
9月4日	外科：胸部外傷	3月10日	薬剤部：薬剤師と医師との協働・連携
9月5日	腎臓内科：血液ガス・電解質異常	3月17日	認知症看護認定看護師：認知症看護の現状
9月11日	外科：腹部外傷		

モーニングレクチャーとは…

*各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。

*指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行なっています。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点に常駐する教員2名、スタッフ医師（家庭医療専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

公立玉名中央病院 総合診療科

月	火	水	木	金
中村	武末	武末	松井	中村
小山	小山	中村	(小山)	小山
	田宮	田宮	田宮	

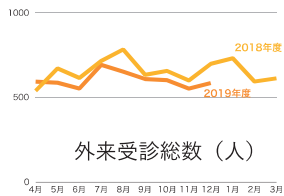
年間診療報告

玉名教育拠点開設から5年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、2017年度から水曜日を除き、連日、日勤帯の救急外来も担っています。

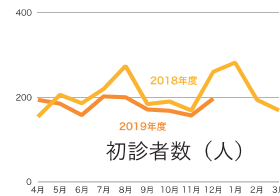
今年度は総合診療科の専攻医が減少したため、診療の中心は新たに加わった2名の家庭医療専門医のスタッフとなっています。彼らへの負担は極めて大きいものとなっておりますが、彼らの活躍により下の図が示すごとく、総合診療科への受診総数、初診者数および入院担当患者数は気候や感染症の流行による増減は見られるものの、今年度も同様のレベルを維持できています。何より彼らの真摯な態度は周辺地域への総合診療科の存在を印象付けるとともに、当院に実習や研修に訪れた学生、研修医及び専攻医の身近なロールモデルとなっています。

救急診療においては2017年より中心を担うようになった救急外来での受け入れ救急車台数は増加し、特筆すべきは不応需率が明らかに低下していることです。救急の現場で「断らない医療」が実践されつつあります。救急医療の充実には地域に信頼される医療機関になるためには必須です。総合診療科が公立玉名中央病院の救急体制を支えるのは最終ゴールではなく、今後、病院をあげての救急体制構築が目指すべきものだと考えます。

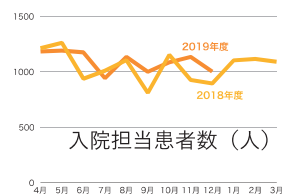
このように玉名中央病院での診療において総合診療科の役割は拡大しています。



外来受診総数 (人)



初診者数 (人)



入院担当患者数 (人)



教育拠点

教育拠点

天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2019年度は2名の常駐寄附講座教員と後期研修の専攻医1名でスタートしています。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。

教育に関しては、2019年度はクリニカルクラークシップの受け入れや初期研修医の受け入れがシステム上でできておらず、質、量ともにまだまだの部分があります。地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを、行ってきました。

今後、天草地域医療センター総合診療科に対して、特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医としての役割だと思います。今後も地域医療機関や院内のニーズに応えつつ、しかしそれだけではなく、もっと広い地域のニーズを抽出しながら、天草地域の医療、教育の発展のため、ただの病院総合医にとどまらない貢献を、組織としてひとつひとつ実践していきたいと考えています。



2. 年間活動実績

- ・ 毎週木曜午後 院内ポータルフォーラム勉強会
- ・ 毎月2回 合同WEBカンファレンス

- ・ 8月22日 院内学会 発表
- ・ 12月14日 院内学会 発表

3. 活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1ターム3週間の特別臨床実習（クリニカルクラークシップ）を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1ターム1～2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。多くは1週間の選択のみでしたが、1名は3週間すべて総合診療科を選択した学生がいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。特に3週間の期間があった学生は、入院から退院までの流れ、退院後の生活についての配慮すべきことなどまで、一連の流れを学ぶことができたと考えます。また、外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

今後は、より多くの学生が総合診療科での実習（総合診療分野でも、地域医療分野でも）ができるよう、大学での体制を作っていくことをご大いに期待しています。



教育拠点

教育拠点

◆ 早期臨床体験実習

熊本大学医学部では、早期臨床体験実習として今年から、3年生に1週間の日程で各病院での実習が行われました。天草地域医療センターにも3名の学生が実習に来ましたが、熊本大学からの移動時間の問題もあり、天草地域医療センターでの実際の実習期間は3日半でした。すべて総合診療科で担当しました。内容としては、認知症患者との雑談、外来患者へのインタビュー、リハビリテーションの参加、訪問看護の参加などを行いました。天草地域をベースに、地域の特徴を理解、把握したうえで診療を行うことの重要性を認識してもらえたと思います。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医は、今年度は1月までの時点で総合診療科の選択がなく、直接的な指導はほぼ行っておりません。今後は、初期研修医自身が総合診療科ローテートを選択できるような体制、充実した教育を行える環境を作っていくことが課題です。

地域医療研修として、1か月のみ他院から初期研修医が研修を行いました。指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

今後は、より多くの初期研修医が総合診療科をローテートできる体制を作っていくことをご大いに期待しています。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療II」を担当しています。専攻医1名が在籍しています。本人のニーズ、診療能力に合わせた診療内容を指導医が調整しながら行っています。他科と協力しながら、呼吸器内科研修、超音波研修、上部消化管内視鏡研修なども取り入れています。また、週に1回、河浦病院からもう1名、専攻医が研修に来ています。その日にあわせて、ポートフォリオ勉強会を毎週行っています。しかし、指導医の外来担当日も重なっていることもあり、診療優先で勉強会を行えない日もありました。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した指導を行える体制を作っていくと考えています。

② 診療

天草地域医療センター 総合診療科

	月	火	水	木	金
高杉	外来	救急	外来	救急	外来
鶴田	救急	外来	救急	外来	

③ 年間診療報告

今年度から天草教育拠点の開設、天草地域医療センター総合診療科が常勤になり、平日は毎日外来を行っています。地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」

「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

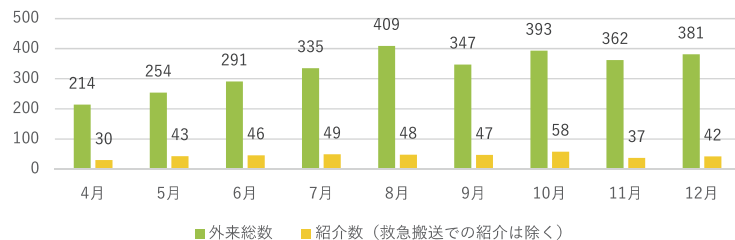
が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝臓

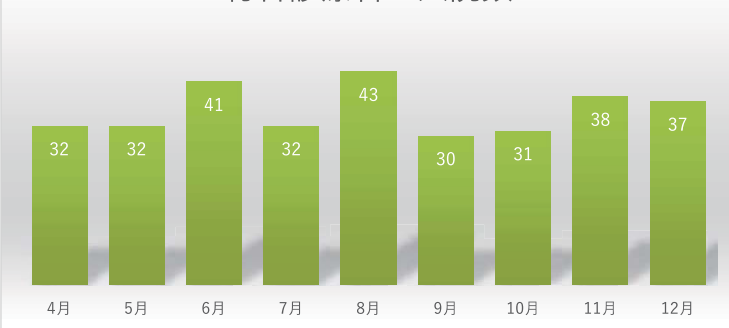
胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など）、感染症（EBV伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、椎体炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など）、膠原病関連（関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など）、運動器疾患（圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など）、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

また、現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士と連携し、摂食嚥下チームの充実化を行っています。昨年度までは行われていなかった嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査での嚥下評価を行い、患者様にあった摂食嚥下のリハビリテーション計画、食支援を実践出来るように取り組んでいます。

外来患者数（救急搬送は除く）



総合診療科 入院数



5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

概要

地域枠学生等（熊本県医師修学資金貸与学生）に対し、地域医療に関する様々なテーマで毎月1回ゼミを開催しました。

熊本県知事修学資金貸与学生は43人おり、各学年の人数は右の表のとおりです。

昨年度から開始した「インタレストグループ」を今年度も継続し、「臨床推論」「シネメデュークーション」「キャリアと制度」のテーマを設定し、学生個人が興味のあるテーマを選び、事前に取り組む内容を決めて地域医療ゼミの当日にプレゼンするという形式でゼミを開催しました。

1年生	5人
2年生	7人
3年生	6人
4年生	11人
5年生	6人
6年生	9人

活動報告

2019年3月22日、前年度最後の地域医療ゼミが行われました。

地域医療ゼミの先輩でもあります、熊本大学病院 山村 理仁先生、公立玉名中央病院 平賀 円先生、熊本再春荘病院 堀 愛莉花先生を講師に迎え、今現在の勤務についてご講演いただきました。

その後、次年度のゼミ代表のあいさつがあり、レクリエーション、翌年度のゼミ活動グループ分けの話し合いへと進み、翌年度のゼミが楽しみとなるような地域医療ゼミとなりました。



教育拠点

熊本県医師修学資金貸与制度

1 2019年4月18日、本年度最初の地域医療ゼミが開催されました。
谷口先生から地域医療ゼミの説明や、新入生の自己紹介、年間スケジュールの確認などをしたのち、懇親会を行いました。



2 2019年5月14日、本年度2回目の地域医療ゼミは、2019年度キャリア支援セミナー「アンガーマネジメント応用編」への参加として行われました。（セミナーについてはP.22をご参照ください。）

3 2019年6月20日、本年度3回目の地域医療ゼミが行われました。
「キャリアと制度」をテーマに行いました。医師就学資金貸与に対する不安や疑問を洗い出すことができました。



4 2019年7月18日、本年度4回目の地域医療ゼミが行われました。
翌月行われる夏季地域医療実習について、事務からは日程の説明を、佐土原先生からは実習の事前課題についての説明を、また、5年生からは各グループ代表から、実習の事前学習についてのスライドを用いての説明がありました。



5 2019年8月16日から17日にかけて、上球磨地域医で令和元年度夏季地域医療実習が行われました。詳しくはP.51をご覧ください。
（さらに詳細な内容は、別冊『令和元年度夏季地域医療特別実習活動報告書』をご覧ください。）



6 2019年9月19日、本年度5回目の地域医療ゼミは、インタレストグループによる「シネメデュケーション」です。映画「レナードの朝」を鑑賞し、登場人物の心情を皆で話し合いを行いました。



7 2019年10月17日、本年度6回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「臨床推論」です。臨床推論のやり方をレクチャーし、実際に症例をもとに臨床推論を行いました。



8 2019年10月26日に熊本テルサにて、第24回熊本県国保地域医療学会が開催され、3年生 W.Sさんが「熊本大学医学部地域医療地域枠夏季地域医療特別実習」と題し発表を行いました。
2年生 S.Mさん、F.Rさん、N.Mさんが参加されました。



9 2019年10月17日、本年度7回目の地域医療ゼミは、医学生・研修医をサポートするための会によるセミナー「やりたいことをあきらめない! Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」への参加として行われました。（セミナーについてはP.22をご参照ください。）

10 2019年12月19日、本年度8回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「臨床推論」です。今回は「診断エラー」について、低学年に向けて丁寧に推論の手ほどきを学びました。



11 2020年1月16日、本年度9回目の地域医療ゼミは、インタレストグループによる「シネメデュケーション」を行いました。「シッコ」を鑑賞し、各国の医療費制度のについて考える機会となりました。



12 2019年2月20日、本年度10回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のテーマは「キャリアと制度」です。医師修学資金貸与制度について熊本県庁医療政策課の方にご説明していただき、自身のキャリアを考える良い機会となりました。



熊本県医師修学資金貸与制度

熊本県医師修学資金貸与制度

2. 令和元年度夏季地域医療特別実習

概要

例年、夏季地域医療特別実習は、熊本県修学資金貸与学生や自治医科大学学生を対象に2泊3日で、熊本市外の病院や診療所などの医療機関で見学型実習を行っていました。平成24年度には、当講座の前身である地域医療システム学寄附講座が企画し、球磨地域全体をエリアに、今回の対象4町村と公立多良木病院を含めて開催されています。近年の医学部カリキュラムの改変で、学外医療機関で実習の機会が増えてはきていますが、地域医療の視点から、医療保健分野のみならず、多方面から広く地域を俯瞰して見る視点を養う機会は少ないのが現状です。将来、熊本県内各地域で医療に従事することが定まっている学生にとって、「地域を知る」ことで、将来の自身の医療者像を考え、



地域での医療に主体的に関わる動機付けにつながる事が期待されます。平成28年度の夏季地域医療特別実習より、「地域を知る」という視点を置き、医療施設の訪問だけでなく、フィールドワークとして、地域の産業、観光資源、生活の場などを、見て・聞いて・感じる事ができるような構成を踏襲しております。

夏季地域医療特別実習前に事前課題を提示し、地域医療ゼミや自己学習を通じて、あらかじめ地域をリサーチ、課題を抽出、地域診断の視点をもって、フィールドワークで各施設や現場を訪問、意見交換をして、最後にまとめたものを発表、共有してもらうという構成をとっております。

今回は、台風10号の接近により、日程を1泊2日に短縮し、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村の4町村で、6グループに分かれて実習を行いました。

◆ 実習参加者

- 熊本県医師修学資金貸与制度利用者 熊本大学 16名
- 自治医科大学医学部医学科 熊本県出身者 10名

実習の目標と狙い

◆ 実習の目標

【一般目標】

- ① 地域を知り、地域との関係性を構築する
- ② 将来、地域に求められる医師となる

【行動目標】

- ① 地域住民と交流する
- ② 地域の現状を様々な視点から知る
- ③ 地域の課題の解決・改善策について発表する
学生間で交流を深める
- ④ 地域で求められる医師像について考察する

◆ 実習の狙い

【「地域を知る」実習を通して】

- ✓ 医療関係者として地域から自分たちが期待されていることを自覚する
- ✓ 医療・福祉・行政サービスの提供/利用のされかたの実際をみる
- ✓ コミュニティの中で、それらのサービスを提供する側の視点と生活者としての利用する側の視点の違いを知る
- ✓ 地域によって異なる健康課題があることを分析することにより、将来、医療者としてどのような地域でも求められる健康課題に携わるための示唆を得る
- ✓ 地域特性や課題に応じた地域包括ケア、自助、互助、共助の現場を体験する
- ✓ 他職種の役割や機能と連携、協働のなされ方を知る
- ✓ 参加者間、グループメンバー間のグループダイナミクス、リーダーシップ、マネジメントを体験する

2日間の日程

8/16(金)

- A ■ 集合
M ■ 移動
■ 事前学習のまとめ

- P ■ フィールドワーク
M ■ グループワーク
■ 交流会

8/17(土)

- A ■ 発表
M ■ 講話
■ 移動(くま川鉄道)

- P ■ 移動
M ■ 解散

熊本県医師修学資金貸与制度

熊本県医師修学資金貸与制度

フィールドワーク

フィールドワーク 1班

槻木診療所
多良木町保健センター

フィールドワーク 2班

多良木町立多良木学園
多良木町通所介護事業所

公立多良木病院 在宅医療センター

フィールドワーク 3班

そのだ医院
特別養護老人施設 福寿荘
湯前町保健センター
ゆのまえ温泉 湯楽里

フィールドワーク 4班

社会福祉法人 御薬園
特別養護老人ホーム桜の里
居宅介護支援事業所桜の里
グループホーム桜の里
地域密着型特別養護老人ホーム桜なみき

古城クリニック
水上村社会福祉協議会

フィールドワーク 5班

松の泉酒造
尾鷹林業
ふれあい福祉センター
岩井クリニック

フィールドワーク 6班

松の泉酒造
尾鷹林業
医療法人誠心会東病院
特定施設入居者生活介護そらまめ
特別養護老人ホームりゅうきんか



詳細は平成30年度夏季実習報告書をご覧ください。



3. 令和元年度卒業生

■ O.A さん

入学当時、大学生活6年間は長いだろうなと思っていましたが、あっという間に卒業が迫ってきました。振り返ると、遊びに勉強に部活に没頭していた私にとっては、地域ゼミや夏季実習の活動のお陰で、医学生としてより充実した大学生活を送ることができました。

この6年間、地域医療について多くのことを学ばせていただきましたが、中でも最も印象に残っているのが夏季実習です。フィールドワークや意見交換会などを通して地域医療の現状を知るだけでなく、熊本地震や水俣病といった、熊本で医療に携わる上では知っておくべき出来事も、実際にその地域に足を運ぶことで深く学習することができ、たくさん貴重な経験をさせていただきました。また、診察や診療はもちろん、病気の予防や健康増進、さらには患者個人・家族背景まで考えることで、地域住民の身体的・精神的健康に責任をもって支えていけるような医師が必要とされていること、そのために特に重要なのは、患者さんと家族はもちろん、周囲の医療従事者と良好な関係を築くことだという、最も基本的で最も大切なチーム医療についても学ぶことができました。

低学年の頃は、受け身の姿勢で参加していたゼミや実習も、学年があがるにつれて、より多角的な視点で地域医療とは何かを自ら考えることができるようになったと思っています。特に最後の夏季実習では初めて最上級生として学年やグループリーダーを任せ、今までの実習とは置かれた立場の違い、緊張感のある、実りの多い3日間でした。同時に、今まで当たり前のように参加してきたこの実習が、本当にたくさんの方々支えがあって成り立つものであるのかを改めて実感しました。また、運営に関しても、入学した頃から一緒に活動してきた同級生の存在はやはり大変心強いものでした。

国家試験に無事に合格できれば、4月からは、初期研修医として熊本の医療に少しでも貢献できるように精進してまいります。忙しい毎日でも感謝の気持ちを忘れず、地域住民の方にとっての「理想の医師像」に少しでも近づきたいと思っています。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習や進路等でお世話になりました多くの方々に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

■ K.M さん

地域医療ゼミに所属してからの6年間を振り返ると、とても充実し、学びの多い6年間でした。入学したての1年生の頃は、医学の知識もほとんどなく、何事も上級生の先輩方、先生方に教えていただきながら、夏の地域医療合宿を楽しみにゼミに参加しているような部分があったな、と個人的に思います。月に一度行われる地域医療ゼミは、私たちにも参加しやすいようにしてくださっていて、低学年にも楽しいゼミでしたが、自分に「地域医療」というものに漠然としたイメージしかなく、自分自身が働く景色も具体的に想像できていなかったように思います。

学年があがるにつれ、ゼミを通してグループをまとめたり、低学年の後輩に考えてもらったりする機会が多くなりました。大学生活の中で自分がそういった立場になることが少ないので、とても良い経験ができたと思います。地域医療の学会の見学にも連れて行っていただく機会があり、他の学校の同年代のほぼ同じ立場の学生がどのような活動を行っていて、どのような姿勢で地域と関わっているのかを知り、とても刺激を受けました。ゼミや地域実習を重ねると少しずつ地域医療に対する自分の考えも持てるようになってきて、同時に地域に住む方々や、地域で医療に携わる方々の想いも感じ取れるようになってきました。地域医療への関わり方も、ひとつではないと分かり、実際に自分の将来像に当てはめて考えることが多くなりました。

地域医療に関わるきっかけになるなら、初め漠然としていてもいいのかもしれないと振り返りをしながら感じたので、もっと多くの方がゼミに参加してくれるといいなと思います。また、私たちの実習や今後の医療体制を考えて下さっている方が、大学だけでなく他の病院や県行政のほうにもいらっしゃり、それはとてもありがたいことで、していただいたことを今後活かしていかなければ、と思います。これから研修医となり、その後この科を選択するかはわかりませんが、6年間通じて「地域医療」について考えてきたことを、何かの形で熊本の医療の貢献につなげたいと思います。

■ M.S さん

自身の大学生活を振り返ってみると、地域医療実習やゼミの存在というのがとても大きなものであったと感じています。卒業というせつなく機会に少しだけ思い起こさせていただけたいと思います。

一年生の夏季実習というのは本当に大きな体験でした。多くの先輩方と一緒に名も知らぬ自治医科大学の皆様と一緒に宿泊での実習。ただただ緊張の中に始まったことを覚えています。しかしながら、フィールドワークの中で出会った地域の方々との交流の中で自然と打ち解けていきました。また、この実習の中で触れてきた多くの思いというものが、私自身の医師像というものに多大な影響を与えました。その思いとともに日々の学習というものを進めてきたように感じています。

それから毎年の夏季実習に参加するたび、その医師像というものはより具体性を帯びてきました。大学での臨床実習が始まると今度は大学での医師の在り方というものに多く触れ、その差異により、「地域での医師」というものがより明確化してきたように感じます。

やはり私は地域医療というものが好きではないか。そう思ったものも頃だったと覚えています。それは生まれた場によるところも大きいとは思いますが、これまでの実習やゼミでの学習というものが影響したのでしょう。

昨今の地域の医師不足は解決すべき大きな問題です。一つの解決の糸口として、今まで体験してきたような小さな交流というものがあるのではないのでしょうか。そのような貴重な場を、いままで提供してくださったことに感謝しかありません。

この大学生活において一つの目標ができました。「地域に必要とされる医師になる」というものです。これは終生のものになりえると考えています。この目標を胸に医師としての道を歩み続けていきたいと考えています。

■ M.D さん

今思い返せば熊本大学に入学したのが遠い昔のように感じています。6年前熊本大学への入学が決まり、憧れの大学生活へ思いを募らせていたときに熊本県庁から一通の手紙が届きました。地域枠合格者は入学前の3月に入学前説明会のため熊本大学に集合するという内容でした。熊本県庁から直接の連絡であったため、大変緊張して大学に足を運んだ記憶があります。恐る恐る参加してみると、地域医療ゼミの先輩方が新入生のために入学後の過ごし方を親切に教えてくださいました。大学生活について無知であった新入生にとって大変役立つ話ばかりであり、おかげで大きな苦勞もなく新生活を始めることができました。今思えば入学前から地域医療ゼミの先輩方にはお世話になっていました。

入学してから毎月行われる地域医療ゼミや夏季実習などイベントが多くありました。特に夏季実習は低学年から毎年楽しみにして参加していました。低学年では基礎の授業が中心であり実際に地域医療の現場を体験できることだけで貴重な経験でした。学年が上がって臨床現場で実習を行うにつれて夏季実習に対する意味合いが変わってきました。特に5年生での夏季実習は印象に残っています。自分たちが学生の中心となり微力ながら実習の運営に関わることで、夏季実習の開催にあたり多くの方の協力の上で行われていくことに改めて気付かされました。毎年何となく実習に参加できていたことに感謝しています。

また、6年間を通じて地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、事務の方々には非常にお世話になりました。迷惑をかけることが多々あったと思います。暖かく見守っていただき本当にありがとうございました。これから医師国家試験を無事に突破し熊本の地で医師としての一歩を踏み出したいと思います。

■ N.K さん

振り返ってみると長いようで短かった6年間。本当にあっという間でした。まず個人的なことから振り返りたいと思います。東京から熊本にやってきて勝手が違う部分に苦勞したこともありました。特に金銭面で悩んでいたところ、熊本県医師修学資金貸与制度の中途採用が始まり薬にもすがらる思いで応募して採

用していただいたときは今でも覚えています。残念ながら4年次にはテスト期間をうまく乗り切れず留年してしまい、生活費を稼ぐためにあるビジネスホテルで室内清掃のアルバイトをしました。そこでは高齢な方もいて厳しい労働環境の中働いている姿を目の当たりにしました。あえてこの経験を文章に残す理由は、あの頃に見た一言では言い表せない光景とそれに対する責任感を失いたくないからです。自分が果たすべき義務と学びやへの希望を胸に臨床研修に向かおうと覚悟しております。

次に地域枠の活動を振り返りたいと思います。地域医療に関して非常に多くを勉強させていただきました。熊本県は全国平均よりも医師が多い県ですが、そんな熊本県でも医師の偏在により医師が不足している地域が少ないことを知りました。これからは地域医療に携わる首都圏出身者として「医師偏在」の問題にこれから一石を投じたいと思います。地域医療に関わる「楽しさ」「やりがい」そして「メリットや利点」を発信していくとともに「情報通信技術(5GやIoT)」を通して地域医療がこれからどんどん変化していくことをほぼ確信しております。これからは「地域医療が最先端」という気持ちでキャリアを形成することに期待が高まります。

■ N.S さん

時が経つのは早いもので、勉強や部活で追われるように過ごしているとあっという間に長い長い学生生活の最後の六年間が経ってしまった。その過ぎ去る日々の中で時折、地域医療に将来携わる身であることを思い出させてくれたのが地域医療ゼミであった。低学年の時分から将来の自身の働く姿を想像することは、長い医師としてのキャリアを考えるのに一役を買ってくれたと感じたので大変有意義な時間を過ごせたと思う。その中でも特に記憶に残っているのは一年の夏季合宿と、最後の幹部学年として運営していたゼミのことである。

最初の夏季合宿では阿蘇方面での実習で、自分は山都町包括医療センターそよう病院で実習をさせていただいた。まだ医学的知識も少ない中でとにかく地域医療の雰囲気を感じようとして臨んでいたことを記憶している。その中で出会った医師の一人に、自分が目標とすべき医師像に合致する先生がいらっしゃったため、その出会いが六年間の最初にあったことは大きな収穫であった。長い学生生活の中にはテスト勉強や実習で忙しく精神的にも辛い時期はたくさんあったが、その都度立ち止まりつつも迷わずにここまでこれたのはその出会いによって自分の目指すべき姿や方向の軸がこの時にはっきり定まったからだと感じている。

また、自分が幹部学年となりゼミを運営していく一部となった時には、もちろん責任感が芽生えたからでもあるが、先輩達に伝える立場になって改めて『地域医療ゼミ』というものを考え直す機会が自分に生まれた。自分はシネメデュケーションというテーマを扱ったが、単なる映画鑑賞に終わらせずにどれだけ各々の考えを引き出せるか、どれだけ医療における考えるべき問題に関与させられるか、などを寄附講座の方々と意見を擦り合わせる内に、ゼミの運営はシンプルながらもとても難しく、また大変やり甲斐のあるものだと感じた。とても良い機会を頂けたと思っている。

六年間でお世話になったことを忘れずに、自分の身につけた医療をしっかりと地域に還元できるようにこれからも努力していきたいと思う。

■ H.R さん

私は元々他大学の文学部で哲学を学んでいました。専門は言語哲学と呼ばれる分野で、特に固有名詞の意味という、おおよそ医療と関わりもなさそうな事項について他者と議論を交わしていました。はじめに医学に関心を持ったのも、言語と脳の関係について生物学的知識を得たいという程度であったと記憶しています。ちょうどそのころは、東日本大震災や原発事故が発生し、医療に関わる重要なトピック、言説が多く噴出している時期でした。その頃から医学的知識を持たない私は、様々な自然科学の専門家たちが、人文科学の目から見ればあまりにもナイーブな物言いをすることにショックを受けました。そうした見方をもつ自分が、何か医療に貢献できることがあるのではないかと考え、医師を志すようになりました。

幸運にも熊本大学に拾って頂き、医学生となった後は、医師就学資金を頂けたおかげで勉学に集中することができました。その他、柴三郎プログラムや各種奨学金の援助により、海外研修や研究室インターンなどに参加することで、ほんの一端ではありますが、基礎研究という新たな視座を得ることもできました。3年時には、熊本地震も経験しました。医学部入学前に、東日本大震災でメディアを通して目の当たりにしたような風景、それまで隠匿されていたような問題が噴出する様を、今度はより身近なものとして体験し、より一層自分が無力であると感じました。

その後臨床実習や国家試験を経て現在に至るこの6年間を振り返ると、私が達成できたことは、せいぜい医学部のカリキュラムについていくこと、それに加えて基礎研究を少し齧る程度のことであつたと思い

ます。6年間で得た知見を活かし、人文科学や自然科学といった垣根を超えた危機的問題の解決に貢献できる人間になるという課題については、来年度より医師として熊本で働き地域医療に貢献しながら追求していきたいと考えております。6年間支援頂いた皆様、ありがとうございました。今後ともよろしく願っています。

■ M.S さん

今こうして医学生としての6年間を振り返ってみると、あっという間の6年間だったということが正直な気持ちです。医師が不足しがちな地域で医師として働きたいと思い、この大学に入学しました。低学年時は特に診療科に拘らずに、いわゆるcommon diseaseほどしっかりと鑑別出来るようにしなければと、そのような疾患ほど時間をかけて勉強しよう心がけてきました。

やがて病院内での臨床実習が始まり最初に実感したことは、患者さんの多くが複数の疾患を併発していることが多いため、対応が一つに決まっている訳ではなく、常に患者さんの状態を観察し、考えながら治療に臨まなければならないということでした。人の命を預かることがいかに大変な仕事なのかということを感じさせられました。

また地域の病院に実習に行った際によく聞いたこととして、医師の数に対して患者さんの数が多いため、時間をかけて診ることが難しいということでした。限られた人員・時間の中では、患者さんの抱えている複数の問題の軽重を判断し、主訴に沿った処方なりを素早く行わないと医療現場が回っていかないということでした。この繁忙さはじっくりと深く疾患について考えたいという医師にとっては悩ましいものであり、地域医療に従事するという選択の障壁の一つになると感じました。

臨床実習自体は私たちの年次から長くなったとのことですが、卒業試験までの時間が足りないと感じたこと以外はとても有意義でした。特に指導医にその場ですぐに質問できると言うことが私にとって一番良かった点です。ただ患者さんと触れあう時間を多くの診療科で取れなかったことが、これから実際の医療現場で働くにあたっての不安な点であり、心残りな部分でもあります。

これから熊本県の様々な地域で医師として働くにあたり、実に多くの悩ましい課題と直面することになるとは思いますが、卒業に当たって医師として頑張ろうと思った今の気持ちを忘れず、周囲の指導を仰ぎながら、患者さんに向き合っていきたいと思っています。

■ Y.R さん

大学の6年間は自由時間が多かったこともあり、それまであまり習慣のなかった読書をするようになりました。決して多読ではないのですが、その中でも面白かった本を2冊紹介させていただきます。

1 「サピエンス全史」(ユヴァル・ノア・ハラリ著、柴田裕之訳、河出書房新社)
ホモ・サピエンスが何故生き残り、どう発展してきたのかを、「認知革命」「農業革命」「科学革命」の3つの革命を通して紐解きます。特に、虚構を信じられようになった「認知革命」が面白く、当然のように信じている国家や貨幣や人権がすべて虚構であることに気づかされます。また、人類史を辿るだけに留まらず、文明は人類に幸福をもたらしたかという視点からも考察します。少々ボリューミーですが、最後までワクワクしながら読了できると思います。未来についての考察である、続編の「ホモ・デウス」もおすすめです。

2 「銃・病原菌・鉄」(ジャレド・ダイヤモンド著、倉骨彰訳、草思社)
「なぜ白人たちは多くのものを発達させてニューギニアに持ち込んだのに、私たちニューギニア人は自分たちのものといえるものがないんですか?」という現地人の問いかけから始まり、分子生物学や言語学などの広範な知見を積み上げて解明する名著です。東西方向に伸びる大陸こそが究極の要因であるとする筆者の主張には目から鱗です。

2冊とも人類史の本になってしまい申し訳ありません・・・最後に、おすすめ YouTubeチャンネルも紹介させていただきます。

3 「予備校のノリで学ぶ大学の数学・物理」
大学レベルの数学や物理を中心とした理系科目の授業動画が多数アップされています。講師のたくみさんは、東京大学大学院卒業、博士課程進学とともに、6年間続けていた予備校講師を退き、このチャンネルを開設されました。非常に専門性の高い内容を、予備校講師の経験をいかし、初学者にもわかりやすく解説されています。

6 業績

1. 地域医療支援センター

◆ 論文、執筆

- Rieko Goto, Tatsuya Kondo, Kaoru Ono, Sayaka Kitano, Nobukazu Miyakawa, Takuro Watanabe, Masaji Sakaguchi, Miki Sato, Motoyuki Igata, Junji Kawashima, Hiroyuki Motoshima, Takeshi Matsumura, Seiya Shimoda and Eiichi Araki. Mineralocorticoid Receptor May Regulate Glucose Homeostasis through the Induction of Interleukin-6 and Glucagon-Like peptide-1 in Pancreatic Islets. Journal of Clinical Medicine. 2019 May; 8(5): 674. DOI: 10.3390/jcm8050674 PMID: 31091693 PMCID: PMC6571682
- Kaneko M, Van Boven K, Takayanagi H, Kusaba T, Yamada T, Matsushima M. Multicentre descriptive cross-sectional study of Japanese home visit patients: reasons for encounter, health problems and multimorbidity. 2019 Oct 5. pii: cmz056. doi: 10.1093/fampra/cmz056. PMID: 31586446 DOI: 10.1093/fampra/cmz056
- 藤本 晴香, 加島 雅之, 吉野 俊平, 高橋 和弘, 早野 恵子, 尾崎 美紀子, 谷口 純一. 『支部セミナーから 専門医部会 九州支部教育セミナー(企画:専門医部会) 内科診療アップデート』. 日本内科学会雑誌 108(10), 2196-2203, 2019-10-10
- 松下 正輝, 古川 昇, 谷口 純一, 加藤 貴彦, 西谷 陽子, 尾池 雄一, 安東 由喜雄. 『意見: 医学教育における性的マイノリティに関する講義の実践』. 医学教育 48(4), 265-266, 2019
- 谷口 純一, 松井 邦彦, 後藤 理英子, 高柳 宏史, 前田 幸佑, 佐土原 道人, 小山 耕太, 田宮 貞宏, 古川 昇, 松下 正輝. 『地域医療実習に行動科学・社会科学的視点をどの様に導入するか?』. 医学教育 50(Suppl.) 235 - 235 2019年7月
- 高柳 宏史, 松井 邦彦. 『水俣から学ぶ地域志向性』. 医学教育 50(Suppl.) 232 - 232 2019年7月
- 谷口 純一, 後藤 理英子, 高柳 宏史, 古川 昇, 松下 正輝, 田代 雅文, 三好 智子, 西谷 克己. 『我が国の医学教育におけるマインドフルネスに関する今後の展開の可能性(第2報)』. 医学教育 50(Suppl.) 127 - 127 2019年7月
- 高柳 宏史. 『【高齢者医療におけるAIの活用】 高齢者医療におけるAI(Artificial Intelligence:人工知能)への期待』. 日本老年医学会雑誌 56(3) 254 - 259 2019年7月
- 高柳 宏史. 『プライマリ・ケアの理論と実践(第29回) ICPCを用いたプライマリ・ケアにおける研究』. 日本医事新報 (4976) 8 - 9 2019年9月

◆ 研究

- 谷口 純一 (共同研究者)
『EPAを基盤とした基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究』
研究種目: 基盤研究B, 研究分野: 医療社会学, 期間 2017-2021
- 後藤 理英子
『鉱質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明』
研究種目: 基盤研究C, 研究分野: 代謝学, 期間: 2017-2020
- 後藤 理英子 (共同研究者)
『女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言: フィンランドとの比較研究』
研究種目: 基盤研究C, 審査区分: 社会学関連, 期間: 2019-2022
- 後藤 理英子
『日本の男性医師と女性医師のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか。』
『ステロイド投与による耐糖能悪化の機序及び治療法の検討』

業績

業績

◆ 学会発表

- 高柳宏史, 【三年次を対象にした学外での早期臨床体験実習の取り組み】, 第9回九州地域医療教育研究会, 2019/4/20
- 内藤貴一, 高柳宏史, 松井邦彦【地域医療実習について】, 第9回九州地域医療教育研究会, 2019/4/20, 口演
- 松原大勇, 川中みなみ, 吉田龍也, 高柳宏史, 松井邦彦, 【水俣芦北地域で実施した平成30年度夏季地域医療特別実習の報告】, 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17-5/19
- 谷口純一, 【熊本県地域医療支援センターの活動報告】, 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17-5/19
- 後藤理英子, 【膵α細胞の鉱質コルチコイドレセプターは膵島におけるIL-6とGLP-1分泌を制御する】, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019/5/23-5/25
- 谷口純一, 【セッション名: プロフェッショナルリズム①】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26, 座長
- 谷口純一, 【地域医療実習に行動科学・社会科学的視点をどの様に導入するか?】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 谷口純一, 【我が国の医学教育におけるマインドフルネスに関する今後の展開の可能性(第2報)】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 後藤理英子, 【熊本県における医師の働き方改革に必要な支援とは?】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 高柳宏史, 【水俣から学ぶ地域志向性】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 渡邊光紗, 高柳宏史, 松井邦彦 【熊本大学医学部地域枠 夏季地域医療特別実習について】第24回熊本県国保地域医療学会 2019/10/26

◆ 講演会 (講師)

- 谷口純一, 【医療者教育におけるマインドフルネス入門 ー私とあなたのセルフケアー】, 第72回医学教育セミナーワークショップ, 2019/5/25-5/26, 講師
- 高柳宏史, 【南海トラフ地震が起きたときに被災地で支援をどう受けるか〜被害を最小限に食い止めるためのノウハウをみんなで語り合おう〜】, 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17, インスタレクトグループ
- 後藤理英子, 【熊本県における医師の働き方改革】, 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/19, シンポジウム
- 後藤理英子, 【女性医療者としてのキャリアを考える】, 第6回 九州山口家庭医療・総合診療セミナー, 2019/6/30, セミナー
- 高柳宏史, 【私達の診ている地域では災害が起こるのです】, 第31回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー, 2019/8/3-8/5, セッション
- 後藤理英子, 【医療者の働き方改革を進めるために〜熊本県における調査と全国的事例より〜】, 熊本市公的病院等地域連携協議会, 2019/8/20, 基調講演
- 高柳宏史, 【包括的統合アプローチ】, 第41回 KOPe ミニレクチャー, 2019/8/20
- 高柳宏史, 大倉佳宏, 山田隆司, 大野每子, 山岡雅顕, 竹島太郎, 【ICPCを知らう〜総合診療のコード化・データベース化にむけて】, 日本プライマリ・ケア連合学会 第17回秋季生涯教育セミナー, 2019/9/22
- 谷口純一, 第5回福岡徳洲会病院JMECCコース, 2019/10/20, 講師
- 前田幸佑, 高柳宏史, 佐土原道人, 松井邦彦, 【外来で役立つ地域特性と医療連携について】, 生涯教育・研修医セミナー, 2019/10/21, 口演

- 後藤理英子, 【誰もが輝くための、熊本県における女性医師支援と課題】, 第57回日本糖尿病学会九州地方会, 2019/10/25, ワークショップ
- 谷口純一, 第5回看護師特定行為研修指導医講習会, 2019/10/27, 講義/グループワーク指導
- 谷口純一, 第64回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin九州・熊本, 2019/11/4
- 谷口純一, 後藤理英子, 令和元年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会, 2019/11/15-11/16, タスクフォース
- 谷口純一, 北区役所管内地域包括支援センター看護機能連絡研修会, 2019/11/22, 講師
- 谷口純一, 令和元年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会, 2019/11/28, 講師
- 後藤理英子, 第29回臨床内分泌代謝Update, 2019/11/29, 座長
- 谷口純一, 第154回臨床研修指導医講習会, 2019/12/14, 講習会運営
- 谷口純一, 令和元年度福岡大学指導医講習会, 2019/12/21-12/22, 講師 (タスクフォース)
- 高柳宏史, 【かかりつけ医によるメンタルヘルス診療】, 熊本県医師会 令和元年度日本医師会生涯教育講座, 2019/12/28, 講義
- 前田幸佑, 高柳宏史, 佐土原道人, 松井邦彦, 【アドバンス・ケア・プランニング~いのちの終わりについて考える~】, 熊本県医師会 令和元年度 日本医師会生涯教育講座, 2019/12/28, 口演
- 谷口純一, 山口県医師会主催「指導医のための教育ワークショップ」, 2020/1/18-1/19, タスクフォース
- 後藤理英子, 令和元年度女性医師の勤務環境整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会, 2020/2/5, 講師
- 谷口純一, 第16回産業医科大病院診療研修指導講習会, 2020/1/31-2/1, 講師
- 高柳宏史, 【ポートフォリオセッション】, 第3回熊本総合診療研究会, 2019/2/11
- 谷口純一, 令和元年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修, 2020/2/15, 講師
- 谷口純一, 【指導医養成講習会】, 日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会, 2019/2/22
- 高柳宏史, 【指導医養成講習会】, 日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会, 2019/2/22
- 藤谷直明, 飛松正樹, 高柳宏史, 山入端浩之, 田浦尚宏, 崎山隼人, 村田祥子, 酒井達也, 石原あやか, 【教育や指導でなんかうまくいかないと思ったら~教育の困難事例への挑戦】, 日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会, 2019/2/23
- 後藤理英子, 第15回若手医師のための家庭医療学冬季セミナー, 2020/2/28, 講師・ファシリテーター

◆ 受賞

- 後藤理英子, 第8回西予市おイネ賞事業 全国奨励賞, 2019/8/5
- 松井邦彦, 谷口純一, 高柳宏史, 令和元年度熊本大学教育活動, 入賞, 地域医療教育の充実の向上に関する貢献, 2019/11/15

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文、執筆

- Kim-Mitsuyama S., Soejima H., Yasuda O., Node K., Jinnouchi H., Yamamoto E., Sekigami T., Ogawa H., Matsui K., Total adiponectin is associated with incident cardiovascular and renal events in treated hypertensive patients: subanalysis of the ATTEMPT-CVD randomized trial. *Sci Rep.* 9, 16589 (2019).
- Kim-Mitsuyama S., Soejima H., Yasuda O., Node K., Jinnouchi H., Yamamoto E., Sekigami T., Ogawa H., Matsui K., Anemia is an independent risk factor for cardiovascular and renal events in hypertensive outpatients with well-controlled blood pressure: a subgroup analysis of the ATTEMPT-CVD randomized trial. *Hypertens Res.* 42, 883-891 (2019).
- Kojima S., Matsui K., Hiramitsu S., Hisatome I., Waki M., Uchiyama K., Yokota N., Tokutake E., Wakasa Y., Jinnouchi H., Kakuda H., Hayashi T., Kawai N., Mori H., Sugawara M., Ohya Y., Kimura K., Saito Y., Ogawa H. Febuxostat for Cerebral and CaRdiorenvascular Events PrEvEntion StuDY. *Eur Heart J.* 40, 1778-1786 (2019).
- Sakakibara A., Matsui K., Katayama T., Higuchi T., Terakawa K., Konishi I. Age-related survival disparity in stage IB and IIB cervical cancer patients. *J Obstet Gynaecol Res.* 45, 686-694 (2019).
- Sueta D., Tabata N., Ikeda S., Saito Y., Ozaki K., Sakata K., Matsumura T., Yamamoto-Ibusuki M., Murakami Y., Jodai T., Fukushima S., Yoshida N., Kamba T., Araki E., Iwase H., Fujii K., Ihn H., Kobayashi Y., Minamoto T., Yamagishi M., Maemura K., Baba H., Matsui K., Tsujita K. Differential predictive factors for cardiovascular events in patients with or without cancer history. *Medicine (Baltimore).* 98, e17602 (2019).
- Tabata N., Sueta D., Yamamoto E., Takashio S., Arima Y., Araki S., Yamanaga K., Ishii M., Sakamoto K., Kanazawa H., Fujisue K., Hanatani S., Soejima H., Hokimoto S., Izumiya Y., Kojima S., Yamabe H., Kaikita K., Matsui K., Tsujita K. A retrospective study of arterial stiffness and subsequent clinical outcomes in cancer patients undergoing percutaneous coronary intervention. *J Hypertens.* 37, 754-764 (2019).
- Yasuda S., Kaikita K., Akao M., Ako J., Matoba T., Nakamura M., Miyauchi K., Hagiwara N., Kimura K., Hirayama A., Matsui K., Ogawa H. Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation with Stable Coronary Disease. *N Engl J Med.* 381, 1103-1113 (2019).

◆ 研究

- 佐土原 道人
『地域医療研修における研修医の成長とレジリエンスに関する多施設研究』
平成30年度科学研究費助成事業 研究種目: 挑戦的研究(萌芽), 研究分野: 教育学およびその関連分野, 期間: 2018-2021

◆ 学会発表

- 久保崎 順子, 北村 泰斗, 空田 健一, 松田 圭史, 中村 孝典, 前田 幸佑, 小山 耕太, 田宮 貞宏, 佐土原道人, 谷口 純一, 松井 邦彦, 【社会的要因で転院に苦慮した末期肝不全の症例】, 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17-19, ポスター
- 空田健一, 北村泰斗, 久保崎順子, 田中顕道, 中村孝典, 高壽清香, 中野万理, 松本加奈子, 安成英文, 小山耕太, 田宮貞宏, 松井邦彦, 【地域を担う開業医との訪問診療、市民公開講座での専攻医としての学び】, 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17-19, ポスター
- 佐土原道人, 2年次研修医の労働・職場環境および将来の専門研修プログラムに対する認識の推移, 第92回産業衛生学会, 2019/5/22-25, 口演
- 前田幸佑, 刈谷龍昇, Jutatip Panaampon, Gunya Sittithumcharee, 岡田誠治, 【エロツスマブはVγ9Vδ2T細胞の原発性滲出性リンパ腫に対する抗腫瘍活性を増強する】, 第81回 日本血液学会学術集会, 2019/10/11-13, 口演
- 前田幸佑, 佐土原道人, 井手尾勝政, 入江弘基, 松井邦彦, 【重度の側腹部痛で救急搬入され、診断に苦慮した孤立性上腸間膜動脈解離の1例】, 第20回日本病院総合診療医学会学術総会, 2020/2/21, 口演

業
績

業
績

◆ 講演会（講師）

- 松井邦彦，【第10回日本プライマリケア連合学会学術集会】，座長，2019/5/18-19
- 佐土原道人，【第151回臨床研修指導医講習会（全国自治体病院協議会）】，タスクフォース，2019/8/23-25
- 佐土原道人，【第19回日病院総合診療医学会】，座長，2019/9/14
- 佐土原道人，【名古屋大学医学部附属病院 第1回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/10/27
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第6回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/11/2
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第7回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/11/3
- 松井邦彦，【第6回地域医療講座講演会】，久留米大学医学部，講義，2019/11/8
- 松井邦彦，【臨床疫学 診療ガイドラインガイドラインの評価について】，聖路加国際大学公衆衛生大学院，講義，2019/11/19
- 松井邦彦，【令和元年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医講習会】，タスクフォース，2019/11/28-30
- 佐土原道人，【第25回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/12/21-22
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第9回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/12/22
- 佐土原道人，【行動医学に基づく患者の行動変容支援】，熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 前田 幸佑，【「アドバンス・ケア・プランニング」～いのちの終わりについて考える～】，熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 高柳 宏史，【かかりつけ医によるメンタルヘルス診療】，熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 佐土原道人，【名古屋大学医学部附属病院 第2回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2020/1/26
- 佐土原道人，【第20回日病院総合診療医学会】，座長，2020/2/21
- 松井邦彦，【第15回プライマリ・ケア連合学会 九州支部学術大会】，座長，2020/2/23

3. 玉名教育拠点

◆ 論文、執筆

- Amano M, Bulut H, Tamiya S, Nakamura T, Koh Y, Mitsuya H. Amino-acid inserts of HIV-1 capsid (CA) induce CA degradation and abrogate viral infectivity: Insights for the dynamics and mechanisms of HIV-1 CA decomposition. Sci Rep. 08 Jul 2019, 9(1):9806. DOI: 10.1038/s41598-019-46082-2 PMID: 31285456 PMCID: PMC6614453

◆ 学会発表

- 小山 耕太，前田幸佑，田宮貞宏，谷口純一，松井邦彦，【「地域での総合診療医育成」～地域の医療機関はどう考えているのか～】，第9回九州地域医療教育研究会，2019/4/20，口演
- 北村泰斗，小山耕太，田宮貞宏，【血清学的梅毒患者の一例】，第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/17-19，ポスター
- 武末真希子，小山耕太，田宮貞宏，【アルコール多飲や低栄養を背景に有し、Streptococcus anginosus groupによる肝膿瘍の治療後に、断続的行動変容に成功した一例】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2020/2/22-23，口演

◆ 講演会（講師）

- 小山 耕太，【地域での臨床研修医育成】，宇土地区医師会学術講演会，2019/8/21
- 小山 耕太，【「病院総合医教育の最先端 ～新たなる挑戦～」～地域での地域医療実践教育拠点による総合診療及び総合診療医教育体制の有用性の検証～】，第19回日病院総合診療医学会学術総会，シンポジスト，2019/9/14-15

7 おわりに

1. 教員から

■ 谷口 純一 特任准教授

今年度も、昨年度に引き続き、個人的には、大学に設置された地域医療支援センターの教員として、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をしつつ、業務遂行を行なっております。

地域医療支援センターの毎週月曜日の定例ミーティング、熊本県医療政策課との月1回の定例の連絡調整会議、地域医療機関への訪問、地域医療機関への診療支援、など機構業務の確実な遂行が出来たと考えております。

また、地域医療・総合診療実践学寄附講座とも連携を取りながら、新しい総合診療専門医の更なる養成に関して企画・立案しておりますが、次年度以降、それらを実施して行ければと考えております。

具体的には、地域医療支援機構としては、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者への訪問、面談と分析・対応検討
- 2) 総合診療専門医の養成に関しての企画・立案
- 3) 地域医療関連の卒前教育の実施
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関への診療・教育支援
- 6) その他、機構関連諸業務（運営会議、連絡調整会議、理事会、等）

また、機構業務以外の、個人的な大学内外業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修（総合診療）の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外の様々な依頼業務（共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ等）
- 6) 学会や行政の各種委員会等（熊本総合診療研究会の運営、内科学会専門医部会、日本専門医機構総合診療専門医部会、など）

に取り組んだつもりです。

上記業務は、一定の成果が上がったと思われませんが、これから更に充実・整理させていく、或いは新たに取り組むべく必要性のある部分もあります。次年度は、上記に加え、個人的には、新しい立場での、診療業務、地域医療支援、総合診療医の養成、卒前の医学教育の充実、等に向け、自部署関連の協力・強化体制の強化と、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 佐土原 道人 特任助教

地域医療・総合診療実践学寄附講座にお世話になり、まる3年が経ちました。診療支援先としては、蘇陽病院、阿蘇医療センターにお世話になりました。以前、診療支援先として行っていた天草地域医療センターに第2の地域医療教育拠点ができたことは、さらなる第一歩となりました。大学病院での診療では、救急部での診療が加わり、総合診療部の外来が週2回から1回に減り大変残念で、働き方改革も踏まえ、ようやくタイムカードでの客観的な刻が導入され、これまでと勤務環境が変わって多少戸惑っております。

今年度は、研修医とはあまり現場の指導の接点がありませんでしたが、学生の課外活動として上球磨地域での夏季特別実習を計画、実行段階まで係らせて頂き、今後の地域医療教育にとって大変参考になりました。関係各所の皆様方、大変ありがとうございました。前年度に続き、看護師特定行為指導者養成講習会の増加、看護大学院での授業などがあり、学会発表や学会活動は低調でしたが、資格としては、日本医師会認定産業医の資格と日本医療メディエーター協会の認定Bを取得しました。プライベートとしては、自宅を新築し、建築物のレジリエンス、建築業の労働衛生や住宅の防火・耐震、住宅環

境基準、地域のサステナビリティなどに詳しくなりました。地域医療や総合診療の実践を行うにあたり産業衛生の幅が広がった気がしています。

来年度は、科研費の最終年度となりますので、成果をきちんとまとめたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

■ 後藤 理英子 特任助教

今年度は熊本県女性医師キャリア支援センターの取り組みを知っていただく様々な機会をいただきました。医師だけでなく、医療を担う多職種の働き方改革についても考える契機となり、私自身も大変勉強になりました。

また、11月には第8回西予市オイネ賞を受賞いたしました。皆様のご支援のおかげで続けることができた活動、熊本県の女性医師支援を、全国的に評価していただけたことに深く感謝申し上げます。熊本県、熊本大学病院、熊本県医師会、熊本市医師会、そのほかにも多くの関係者に協力していただきながら、一丸となって活動を進めてきた結果が、少しずつ身を結んで評価され、今後の活動にも期待を込められての受賞だったと、身が引き締まる思いです。

一方で医療人のキャリア支援を担うには自分自身も研鑽を積んでいく必要性を改めて感じた1年でもありました。基礎研究の仕上げ、学位取得、専門医取得、臨床研究の開始と、様々な経験をすることができました。

すべてのことが、皆様のご協力があって初めて経験できたことです。ご協力いただいております皆様へ改めて深く感謝申し上げます。来年度も臨床、研究、教育、キャリア支援に、自他共栄の精神で一步ずつ前進する所存です。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。

■ 高柳 宏史 特任助教

診療、教育、研究、学会や研究会活動、家庭と、やはり忙しい1年間でした。それぞれ、まとめたいと思います。

【診療】大学病院の救急と総合診療の外来を行っています。救急外来は多彩な患者さんの診療を通して、大学の各科の先生方と顔を合わせますし、大学のシステムを垣間見ることができるといえる点では学びがあります。また総合診療の外来も今の医療システムの中では対応できない患者さんと向き合うことができ、総合診療としてのやりがいを感じたりもします。しかし、自分のフィールドと一番感じるのは御所浦診療所の外来でしょうか。常勤ではないので、住民や地域との距離を感じますが、自分の専門とする家庭医療の実践を一番感じることができるため、毎週外来を楽しみにしています。

【教育】早期臨床体験実習Ⅲ、クリニカルクラークシップ「地域医療」の担当教員をしています。それが一番大きな仕事です。毎年少しずつ修正し改善できていると思います。2019年度ではできなかった「地域医療」に関する指導医講習会を2020年度では開催できればと思っています。地域で学生の指導を担っている先生方とよりコミュニケーションをとり充実した実習内容にできればと思っています。

【研究、学会、研究会活動】特に研究を進めていきたいのですが、なかなか手付かずになってしまっているのが現状です。少しでも進めていきたいと思っています。プライマリ・ケアにおけるデータベース構築、ICPCのコード分類の可能性、プライマリ・ケアと災害、それらのテーマについてこれからも深めていけたらと思います。そのためにも後進を育てられるように地方の研究会などの活動も活発にできればと思っています。

【家庭】できる範囲、育児・家事を担ってきました。家族との関わりは、自分の支えとなっていることも気づいています。ただ無理はしないように気を付けていこうと思います。

次年度も、引き続き精進してまいります。今後ともよろしくお願ひ致します。

■ 前田 幸佑 特任助教

2016年4月に当講座に着任し、早4年が過ぎ去ろうとしております。大学病院内での業務としては主に総合診療科外来とER日当直の支援を行って参りました。学生の授業や実習等にも携わり、また、地域医

療支援としては主に上天草市立上天草総合病院で勤務致しました。さらに、社会人大学院生として基礎研究も行っており、2019年10月には日本血液学会学術集会で研究成果を発表し、現在は論文作成に取り組んでおります。また、今後は国際学会での発表を目指し準備を進めているところです。

この1年間を振り返って思うことは、本当に様々な貴重な経験をさせて頂いたということです。大学だからこそ様々なことが経験出来たと言っても過言ではないと思います。ただし、この環境を今後とも希望するのか・継続していきたいのかということについては別で、自分の今後の進路について真剣に考えました。その結果、今年度をもって退職しようと決心致しました。もっとアクティブな環境に身を置きたいと思ひます。

4年間という短い期間では御座いましたが、これまで大変お世話になりました。有難う御座いました。今後も引き続き精進して参りたいと思ひます。

■ 田宮 貞宏 玉名教育拠点指導医（公立玉名中央病院 副院長／総合診療科）

玉名拠点が設置された公立玉名中央病院の2019年度を振り返ると、前年度より噴出した種々の問題を抱えつつ始まり、新病院に開業が近づく中、どこか焦燥感がつきまとう毎日だったような気がしております。

総合診療科としても総合診療専門医プログラムのリクルートも苦戦を強いられ、今年度は1年次の専攻医がいない状況でのスタートとなりました。総合診療科開設以来、院内外での業務や活動が増えている最中ですので、かなり不安を感じておりました。

蓋を開けてみると、あらたにスタッフに加わっていただいた武末先生、中村先生の両医員には多大な負担を掛けてしまう結果になっておりますが、おかげで今年度も診療および教育のレベルはさらに向上していると感じています。また、小山部長は診療・教育業務に留まらず、新病院の診療体制の構築の中心となり様々な困難な課題に取り組み続けてきています。このような頼もしい仲間恵まれていることに感謝するとともに、彼らや初期研修医、専攻医らの日々の労働環境の改善、キャリア支援は喫緊の課題と認識しており、私としては焦燥感を持ち続けることが大切な仕事と思ひ直し課題に対処して行きたいと考えております。最後に今年度も変わらず、ご支援、ご助言いただいた皆様に御礼を申し上げて報告とさせていただきます。

■ 小山 耕太 玉名教育拠点指導医（公立玉名中央病院 総合診療科部長／総合診療科）

「総合診療科の医師として、部長として」

2019年は公立玉名中央病院としても、総合診療科としても「変化の年」でした。病院に関係する不祥事に始まり、管理部門では新理事長をお迎えしました。診療科としては田宮貞宏部長が副院長に就任され、私が総合診療科部長に就きました。それまで診療・教育業務に自分の力のほぼ全てを注力すれば良い状況から一変、それまでとは違う意味(様々な意味)で重責が伴う管理の仕事が増えました。

公立玉名中央病院は、2021年度末を目途に玉名地域保健医療センターと合併し、新病院「くまもと県北病院」を新玉名駅近くに開院します。それに向け、これまで以上に地域の期待に応えるべく、新たな診療体制も構築されます。この診療体制改革プロジェクトの診療調整部門を担当させて頂くことにもなり、院内のみならず、かなり多くの方々と共に調整を行っております。改めて、多くの方々のお力添え頂いたおかげで、これまでも当院が機能していたことを実感・感謝する毎日です。そして、これからもその「地域の力」は必要不可欠と言えます。

2020年は、「改革の年」になると思います。地域の医師として、病院の総合診療科部長として、新病院の診療調整リーダーとして、「地域に貢献できる医師は地域で育てる」を念頭に、玉名地域の診療と、

熊本県の総合診療科教育を牽引する総合診療科を、これからも発展的に展開することをここに約束します。そして、メイドイン玉名の医師が、県下全土で活躍できるようなシステムを今後も構築し続けます。

どうか、皆様のご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

個人的には、論文執筆もしたいところです。誰か、手伝って！(笑)



新病院完成予想図

おわりに

おわりに

■ 高杉 香志也 天草教育拠点指導医（天草地域医療センター 総合診療科）

思い返すと、一年前の2019年の今頃は、地域医療実践天草教育拠点立ち上げに際し、医師会の先生方への挨拶、総合診療科の紹介スライドを作っていました。

天草へ赴任後は怒濤のような日々でしたが、松井先生、谷口先生、天草地域医療センターの原田院長先生をはじめとした医局、スタッフの方々の御協力により、総合診療科 天草教育拠点としての立ち上げは順調であったと思います。あらためて感謝を申し上げます。

天草での当科の役割は、病院総合診療医として期待されている所が大きいものでした。common diseaseから希少疾患までの幅広い診断、救急対応から慢性期対応、HCU管理から一般病棟管理まで幅広く病院総合診療を学ばせて頂きました。天草地域の拠点病院であるため重症疾患は多いものの、医局間コンサルトはスムーズで画像診断機材、素晴らしい読影をして頂く放射線科Dr.も揃っており非常に働きやすく、研修医、専攻医が学ぶ場としても非常に素晴らしい病院だと感じています。

ここまで記載したのは2月下旬、一身上の都合で3月までで退局させて頂く事となり、皆様へ大変申し訳なく思い筆が止まっていました。このまま寄稿はせずフェードアウトしようと目論んでいたのですが、かえって御迷惑おかけする事となりそうで3/9急いで執筆しています。

次の赴任地である与論島は、人口5300人、周囲25km、空と海と笑顔の素敵な小さな島なのですが、医療情勢とても苦しいものとなっています。ここで学んだ事を生かし地域医療を継続する事、又そこで出会う若い医師と共に学ぶ事（できれば熊大総合診療科のリクルートにつなげる事！）を皆様への恩返しとして頑張っていこうと思っています。

本当にありがとうございました。

■ 鶴田 真三 天草教育拠点指導医（天草地域医療センター 総合診療科）

2019年4月に天草地域医療センター総合診療科および教育拠点の新設に際し、高杉先生、空田先生とともに赴任させていただきました。久しぶりの2次医療機関、久しぶりの病棟管理でしたが、高杉先生はじめ周囲の方々に恵まれ、診療面についてはなんとか約1年、大きな問題なくすごすことができました。

しかし、1年前に自分自身が天草でやりたいと思っていたこと（地域の多職種との枠を超えた連携、ヘルスプロモーションなど地域での活動、総合診療医としてのシステムづくり、等）については、正直ほぼなにもできておらず、反省の思いばかりです。

現状、ほとんど地域にでることができていません。力不足を実感しています。天草の広大な範囲で、医療機関や福祉機関も多い点でも、予想はしていましたが難しさを実感しました。これからも、まずは限られた範囲でももっと人脈を広げて努力していきます。よりよい地域医療につなげていけるよう、少しずつ活動していきたいと思っています。天草地域の医療の問題点、これから自分たちが主になって貢献すべき課題は、天草に赴任したからこそ見えてきた部分もあります。次の1年では、少しは具体的に前進したいと思います。

また、教育拠点でありながら初期研修医や学生の指導を行う機会がほとんどありませんでした。初期研修医や学生に、研修や実習で総合診療科を選んでもらえるよう、楽しく、学びを提供できるよう、地道に努力していこうと思います。

個人的には、自分の力不足のためになかなか充実した日々を送ることができず、思い悩む毎日です。しかし、天草地域医療センターに在籍するのもあと1年なので、このまま終わらず、今後の地域医療センターに関わる医療、教育のためにも、何らかの形をつくっていかうと思っています。もちろん、天草地域全体に対する貢献は今後もずっと行っていくつもりなので、課題や障壁は多々ありますが、ひとつひとつ、できることを具体的にいきます。なかなか貢献できておらず申し訳ありませんが、今後もご協力をよろしく願いいたします。

3.あ と が き

2019年度は、2020年になって、COVID-19（コロナウイルス）のパンデミックで、日本のみならず、世界中が大きな災難に見舞われ始めました。医療の現場もその対策に追われ、熊本県の地域医療機関にとっても、苦難が生じ始めていると感じております。

その様な中で、2019年度の私ども「地域医療支援センター」の活動をご報告させていただきました。設置から6年目となり、今年度は、「地域医療・総合診療実践学寄付講座」の「天草教育拠点」を新たに設置し、地域で総合診療での貢献と人材育成を展開する事ができました。今後、県の修学資金貸与制度の卒業生がますます地域の医療機関に出ていく事が増えて参りますが、地域貢献とキャリア形成を更に充実させていく方策を進めていきたいと思っております。

男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として、地道に着実に活動を続けておりますが、少しずつ成果も出てきていると思われまます。こちららも、より一層のご理解を賜りたいと願っております。

次年度は、熊本県とも更に協力して「地域医療対策協議会」の実施・運営や、「熊本県地域医療ネットワーク構想」の遂行に協力し、熊本県の「第7次保健医療計画」の実現に微力ながらお役に立てればと願っております。

最後に、谷原病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援いただきました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力をいただきました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解いただいた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願ひ申し上げます。

地域医療支援センター 谷口 純一

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5627 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki-iryoku@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryoku-kumamoto.org/>

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5794 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki_soushin@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryoku-kumamoto.org/dcfgm/>